第13回　記者懇談会・実施要項

1　日時　　平成10年10月20日（火）　15：00

2　場所　　100周年記念会館　第２会議室

3　内容

(1)　若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表　〔15：00～15：30〕

・植木　　哲　　法学部教授

研究テーマ「損害賠償法の現代化から鷗外の恋人探しへ」

（資料１）

・新井　泰彦　　工学部助教授

研究テーマ「人体計測からマイクロマシンの計測まで」

（資料２）

(2)　学内情報　〔15：30～16：00〕

①　パリ大学Ⅲ（ソルボンヌ・ヌーベル）との交流協定締結について（資料３）

②　臨床心理士について（資料４）

③　秋の人権啓発行事「国際人権週間」について（資料５）

④　経済・政治研究所40周年記念シンポジウムについて（資料６）

⑤　工学部40周年パネルディスカッションについて

(3)　情報交換　〔16：00～16：30〕

4　関西大学の出席者

石川　　啓　（学長）
浦上　　忠　（教学部長代理）
植木　　哲　（法学部教授）
新井　泰彦　（工学部助教授）
岩村　　護　（企画室長）
荒木　紀忠　（広報課長）

5　配布資料

①　ﾃﾞｲｳﾞｨｯﾄﾞ･ﾌﾞﾙｰｴｯﾄ 著（ﾀﾞﾆｴﾙ･ﾃﾞﾌｫｰ 研究会訳）

『「ﾛﾋﾞﾝｿﾝ･ｸﾙｰｿｰ 」挿絵物語－近代西洋の二百年(1719-1920) －』

②　『関西大学通信』　第266号

以上

関西大学法学部教授（法博）　植木　哲

資料１

研究テーマ・損害賠償法の現代化から鴎外の恋人探しへ

民法の基本テーマである損害賠償法研究は、長い伝統と優れて現代的な意味を持つ学問である。私はこれを製造物責任法に関する研究から始めた。それは、２５年前、故我妻栄教授と一緒に第一次製造物責任法試案を発表したときに始まる。今日では新しい法律が制定されるに至ったが（⑤）、当時はまったくの未開拓の分野であった（⑧）。この考えをさらに進め、公害・環境問題（④）や災害問題（⑫）の解決へ応用した。同時に、物の生産から販売へ関心が移り、そこで生じる与信に関する法律問題を消費者信用法の観点からまとめた（⑨⑩）。

他方、近時は医療をめぐる法律問題の解決へ関心を寄せている。これは伝統的な医療過誤問題の解決をはじめ（③⑪）、遺伝子操作等による現代技術の生命への介入、さらには脳死と臓器移植の関係等にともなう法律問題の解決等と関係する（①⑥⑦）。今後は、医療と介護の関係についても法律的研究を進めて行きたい。

医事法の研究を進める過程で森鴎外研究の必要を感じた（②）。明治初頭、軍人として日本の医療改革に携わった森鴎外は、１８８４年から１８８８年までドイツへ留学し、衛生学の研究を行っている。同時に、そこにおける個人的・学問的・組織的経験が鴎外の文学作品へ大きな影響を与えている。小説『舞姫』はその典型であろう。

『舞姫』の主人公エリスは架空の人物像であるが、同時に鴎外を追って日本へ来たドイツ人女性と裏腹の関係にある。鴎外研究家はこの女性を長年にわたり追っているが、未だに特定されていない。ベルリン大学での留学を機会に、私はこの女性を法律的観点から追い求め、ほぼ特定することが出来た。これらの事実を素人に分かりやすく解説し、法律学の別の効用を啓蒙する必要がある。

表題の損害賠償法の現代化と鴎外の恋人探しは一見無関係に見えるが、そうではない。法律学は実践の学であり、紛争の解決に資するものでなければならない。しかし、解決されるべき対象は現代の事象に限らず、歴史的なものであっても構わない。ここにパンのための学問である法律学のもう一つの顔がある。

研究業績（個別論文（欧文を含む）を除く）

①『医療の法律学』有斐閣・１９９８年
②『医事法教科書』信山社・１９９７年
③『医療判例ガイド』有斐閣・１９９６年
④『環境汚染への対応』新日本法規出版社・１９９５年
⑤『現代ＰＬ法の実務解説』新日本法規出版社・１９９４年
⑥『世界の医事法』信山社・１９９２年
⑦『医事法の現代的諸相』信山社・１９９２年
⑧『施設の欠陥と製造物責任』法律文化社・１９９０年
⑨『クレジット法の理論と実際』信山社・１９９０年（神戸賞）
⑩『消費者信用法の研究』日本評論社・１８８６年（神戸賞）
⑪『医療紛争の事例と争点』金芳堂・１９８４年
⑫『災害と法――営造物責任の研究』一粒社・１８８２年（学位論文）

植木（うえき）　哲（てつ）　教授

1944年長崎県島原生まれ。神戸大学大学院法学研究科修士課程を経て73年滋賀大学経済学部講師、助教授そして教授に。ついで、京都府立医科大学に移られる。93年４月から本学教授に就任。この間、フンボルト財団の給費生としてドイツに留学、ドイツ語で書かれた論文も数多い。専攻は民法。業績は多岐の分野にわたる。第一の分野は災害法で、82年出版の大著『災害と法』により神戸大学から法学博士の学位を得られた。第二の分野は消費者信用であり、87年『消費者信用法の研究』では神戸賞（奨励賞）を、編著の『クレジット法の理論と現実』では神戸賞を受賞された。第三の分野は医事法であり、92年の編著『医事法の現代的諸相』および『世界の医事法』に結実している。第四は環境法の分野で、最近、『環境汚染への対応』をものされている。第五に、製造物責任（PL）法の関心も高く、『現代PL法の実務解説』を刊行された。明朗闊達でスケールの大きい学者である。

資料2

『人体計測からマイクロマシンの計測まで』

工学部 機械工学科　新井 泰彦

工学分野における製品の高密度化，高機能化にともない高精度な計測法が要望されるに至っている． 現在では， STMなどによるプローブ顕微鏡によってÅオーダーの計測が可能となってきている.しかしながら，非接触かつ面計測を行う場合には，光による測定法が今なお有効である． ここでは，モアレトポグラフィにもとづく人体， 航空機(mオーダー)の計測から光波干渉計を用いたマイクロマシンの動特性(nmオーダー)の計測に至るまでの幅広いレンジにわたって用いられている縞解析技術の関西大学における研究成果を紹介するとともに,その成果がHRC(High Technology Research Center)においていかに利用されようとしているかについて述べる.

新井（あらい） 泰彦（やすひこ）
助教授

1979年本学大学院博士課程前期課程を修了。同年機械工学科助手。「モアレ縞の解析とその応用に関する研究」で阪大から工博の学位を取得、その後も引き続いてオプトエレクトロニクスの分野で活躍を続けている。有能で独創性があり、今後のハイテク部門のパイオニアとして期待されている。92年度の在学研究員として米国ロチェスター大学に留学。研究態度は積極的で、自らの道は自身で開拓し、着々と実行に移している。

その反面、飛行機に乗るのが嫌いとか、学内レガッタで学生を率いて優勝をかきさらうとか、熱心な巨人ファンとか微笑ましい面もある。もう一つの特筆事項に生活の簡便化というか、掃除や食事の手抜き的傾向が強い。徹夜もラーメンで済ますとか、万年床とか全く寝食を忘れてしまうが、最近では外国でのご活躍も多く、自然に改善されることと思う。今後の堂々たるご発展を祈る。